

「振り返り・自己分析・選択」の過程を通して、主体的に学ぶ力を身につけさせる

長崎県立諫早高校

2021年度大学入試で、長崎県内屈指の合格実績を上げた長崎県立諫早高校。その成功の要因は、様々な活動における生徒の振り返りと自己分析、それを基に、自分が取るべき行動を選択させるという3年間の指導の中で成し得た、確固たる「マイ・ストーリー」の形成だった。

最後まで合格を信じ、挑戦を続けた生徒たち

2021年度大学入試において、3年生280人のうち、73%の生徒が国公立大学合格を果たした長崎県立諫早高校。同校の大学入学共通テスト（以下、共通テスト）の自己採点結果を基にした個別学力検査（前期日程）出願時の可否判定と最終可否結果を見ると、興味深い数値が浮かび上がる。共通テストの結果のみによる可否判定でAまたはB判定だった生徒の合格率は92・4%と高い結果で

あったが、C判定以下だった生徒の合格率も、53・4%という好結果だったのだ。原田尚之校長は、「『行ける大学』ではなく、『行きたい大学』への思いを貫いた本校の生徒たちが誇らしい」と語る。「本校におけるC判定以下での受験、いわゆるチャレンジ受験の生徒のうち、半数以上の生徒が逆転合格を果たしました。さらに、国公立大学の学校推薦型選抜、総合型選抜では、出願した31人のうち、7割を超える23人が合格しました。本校では近年、生徒に時間や機会を預ける指導を重視

してきました（『VIEW21』高校版2018年12月号P.21〜24参照）。21年度大学入試の結果は、先生方が生徒の志望の確かさや長所を把握し、3年間支援してきた成果でもあると思います」生徒たちが、「行ける大学」ではなく、「行きたい大学」への思いを確固たるものとし、最後まで合格を信じて挑戦を続けられたのはなぜか。同校の取り組みのうち、志望理由書作成、キャリア検討会、そして「振り返りと目標設定シート」による自己分析に焦点をあてながら、「マイ・ストーリー」を

描く力を育んだ要因を明らかにしていく。

自分の「これまで」に向き合い「これから」を考える

21年度大学入試に挑んだ生徒が1年次から徹底して取り組んできたのが、学校行事や「総合的な学習の時間（以下、総合学習）」、そして、学期や学年ごとにおける振り返りだ。学年主任として生徒を3年間見守った藤村誠先生は、「振り返りによって、様々な活動での自分の成長を知り、次に取り組み

2021年度大学入試合格者の姿から考える
志望をかなえる「マイ・ストーリー」

べきことを考えさせたかった」と
ねらいを語る。

「振り返りでは、自己評価に加
えて、担任や保護者、クラスメー
トからも評価してもらいました。



校長
原田尚之
はらだ・たかゆき
教職歴38年。同校に赴任し
て4年目。



前3学年主任
藤村 誠
ふじむら・まこと
教職歴33年。同校に赴任して
7年目。地理歴史・公民科。



教務主任
後田康蔵
うしろだ・こうぞう
教職歴25年。同校に赴任し
て10年目。理科。



進路指導主事
園田浩二
そのだ・こうじ
教職歴16年。同校に赴任し
て7年目。数学科。

学校概要

設立 1911(明治44)年
形態 全日制・定時制/普通科/共学
生徒数 1学年約280人
2021年度入試合格実績(現役のみ) 国公
立大は、東京大、京大、大阪大、広島大、
九州大、長崎大、熊本大などに204人が合格。
私立大は、慶應義塾大、自治医科大、東京理
科大、明治大、早稲田大、同志社大、立命館大、
関西大、関西学院大などに延べ195人が合
格。

図1 2年次2月 志望理由書作成の流れ

- 1 この時期に志望理由書を作成する理由を生徒に説明する
- 2 高校生活の取り組みを、志望大学での学びや研究の社会的な意義と結びつけ、志望理由をストーリーにして表現させてみる
- 3 志望大学のアドミッション・ポリシーや学部・学科の研究内容を確認し、自分が取り組みたい研究の社会的意義を、志望大学で実現できる研究に結びつけられるかを考えさせる
- 4 志望理由を構成する、意思表示・きっかけ・社会的意義・まとめの4つの観点それぞれについて文章化させる
- 5 意思表示・きっかけ・社会的意義・まとめの4つの観点それぞれを、1つのまとまった文章として下書きさせ、生徒自身に添削させる
- 6 学びたい研究内容と生徒自身のエピソードがつながったストーリーを盛り込んだ志望理由書を完成させる

※学校資料を基に編集部で作成。

多面的評価の積み重ねによって、
生徒は高校生活での成長を、志望
理由書や小論文などで表現できる
ようになったと思います」

「マイ・ストーリー」を描く力
を生徒に育む上で大きな役割を果
たしたのが、2年次の2月に全生
徒が取り組む志望理由書作成だ。
「1年次からの様々な場面での振
り返りの集大成にあたるもの」と、
進路指導主事の園田浩二先生は説
明する。

「『総合学習』における課題研究
を始めとする、自分の高校生活
を語る上での材料を棚卸ししなが
ら、希望進路への思いを段階的に
ストーリーにしてみる場が、志望
理由書作成です(図1)。自分の
高校生活での経験、大学での研究
の社会的意義などから構成される
志望理由書の作成によって、自分
の志望理由は大学にとって説得力
のあるものになっているか、出願
までにどんな活動をしておくべき
かなどを考えることができます」

受験勉強が本格化する3年生に
なる前に自分の「これまで」に向
き合い、「これから」を考えたと
は、第1志望を貫く素地になっ
たと藤村先生は考える。

「志望理由書の作成は、学校推
薦型選抜・総合型選抜の受験者だ
けでなく、一般選抜の受験者に
とつても、学習のモチベーション
を高めるスイッチの役割を果たし
たと思います」(藤村先生)

教科学力にとどまらない、
多様な視点で生徒を把握

1年次12月と2年次10月には進
路検討会「キャリア検討会」を実
施する。同検討会では、ルーブリッ
クで示された「本校の目指す生徒
像」に対する生徒の自己評価、活
動実績、そして1年次の1学期に
受検した「GPS-Academic(※)」
の結果を基に、学校推薦型選抜、
総合型選抜を勧めたい生徒を学年
団全体で検討する(P.20図2)。
「キャリア検討会では、学校推
薦型選抜、総合型選抜の受験にふ
さわしいと考えられる生徒を学年
団で共有しました。そして、その
生徒に今後有用と思われる校内外
の活動は何かを話し合ったり、既
に同様の活動に取り組む他クラス
の生徒や、フロントランナー的な

※ ベネッセのアセスメントの1つで、問題発見・解決に必要な3つの思考力(批判的思考力、協働的思考力、創造的思考力)を選択式、記述・論述式、質問紙で多面的に測るテスト。

図2 キャリア検討会で担任から提出される生徒資料

○組 ○番	欠席日数 (2年8月まで)			0	GTEC	1020	テニス部
GTZ	批判	協働	創造	① 琉球 大学 医 学部 医 学科			
7月進研	SI	GPS	A B B	② 徳島 大学 医 学部 医 学科			
ルーブリック自己評価				担任評価			
授業	家庭学習	総合	学校生活	部活動	諸活動	担任評価	
B	A	B	A	B	B	担任評価	
				特記事項			
				カナダ研修			

キャリア検討会では、進研模試とGPSの結果、育成を目指す資質・能力についての自己評価と担任評価などを基に、学校推薦型選抜、総合型選抜の受験に適した生徒を検討する。検討会に参加する教師は、クラスや担当教科を超えて生徒を理解し、検討会後は、担任以外の教師からも生徒への声かけが活発に行われる。

※学校資料を基に編集部で作成。

上級生と検討対象の生徒を引き合わせるための情報を共有したりしました」(藤村先生)
キャリア検討会の組上そじょうに載せる生徒は各クラス5人程度としたため、担任は検討会に先立って、自

分が担当するクラスの候補の生徒と面談を行い、その時点での希望進路や校内外で取り組んでいる活動などについての生徒の考えを聞き、人選を行った。

「面談によって生徒は、学校推薦型選抜や総合型選抜が、評定のよさや、欠席日数の少なさといったことだけで出願できるものではなく、高校生活での活動などを根拠にした強固な志望理由が必要であることを認識したと思います。また、担任にとっても、進路をテーマに深く生徒と面談する、貴重な機会になりました。担任の先生方からは、『生徒のことを深く理解できた』『教師としての成長につながった』といった声が聞かれました」(園田先生)

3年生に進級しても、「マイ・ストーリー」を描く力を育成する支援は続いた。
「例えば、8月に実施した校内学習合宿では、自学自習だけでなく、同じ学部系統を志望する生徒をグループにした討論会も実施しました。本気で学習に取り組む最中だからこそ、『なぜ、大学に行

くのか』を語り合うことは、極めて良質なモチベーションになります。秋以降も、『何のために進学するのか』と生徒に問いかけ続けてくださいと、先生方にもお願いしました。改めて志を言葉にすることで、生徒が『マイ・ストーリー』についてさらに深く考えたり、考えが広がったりすることを期待していました」(藤村先生)

自分に必要な学びを
生徒が考え、選択する

21年度大学入試における同校の実績は、3年間を通して生徒の志望を確たるものにしていったことが大きな要因となっていることは確かだ。そして、もう1点着目すべきなのが、生徒が自分自身で学習面での課題を見つけ、主体的に学習に取り組むための支援だ。同校の生徒は、「振り返りと目標設定シート」(図3)に沿って模擬試験の振り返りを行い、合格するためにどのレベルの問題を得点できるようにする必要があるのである。これを考え、科目ごとの学習方法や時

間配分などを検討する。「振り返りと目標設定シート」は、家庭学習や課外講座などで、自分は今何を学ぶべきなのかを生徒自身が判断する基準になったと、教務主任の後田康蔵先生は語る。
「生徒が、自分の状況を客観的に捉え、自分に必要な学習を選択する。どのような学習をすればよいか分からない生徒は、教師に相談し、考える。そうした選択の場面を教科学習においてもつくることで、主体的に学ぶ力が身につくと考えました」

同校の教師たちは、教科学習のみならず、進路学習における選択の経験が、受験に向けて主体的に学ぶ力へと転化されると考えている。
「本校では、1年次の1学期から、自由参加の進路イベントをたくさん生徒に紹介します。東京大学に進学した卒業生と高校生が学校改革について話し合ったり、医学部志望者が長崎の離島の医師の下でインターンシップを経験したりと、その多くは本校独自のものです。学校が手間ひまをかけて進

2021年度大学入試合格者の姿から考える
志望をかなえる「マイ・ストーリー」

図3 振り返りと目標設定シート

1月進研実力の振り返りと目標設定													
2年 組 番 氏名													
易	A	自己採点											
		得点率	104	84	66	38	49	45	39	77	28	59	
	B	自己採点											
		得点率	66	100		40	36	32	37	61	23	63	34
	C	自己採点											
		得点率	30	10		16	26	19	43	9	6	9	10
	合計		自己採点	200	200	200	100	100	100	125	50	100	100
			得点率										

言語	レベル	取組モデル	目標 (の月日までに取り組むこと)
英語	A	【例文】 授業における発問について、自分でも考える。問題演習では、自分の得意のところが足りないので単語をより覚える。 【目標】 授業の学習において、「自分の」質問しやり取りを通じて積極的に発言すること、他者の発言に反応すること。	
	B	【例文】 英作文で単語や構文を覚える。 【目標】 英文読解で単語を覚える。全単位の単語に慣れる。文法、句法を覚える。	
	C	【例文】 現代文キーワード及び漢字の読み書きの練習。 【目標】 英文読解で単語を覚える。現代文のキーワードの活用。現代文の読解力を高める。	

模擬試験終了後、科目ごとに小問別の難易度レベルを3段階で生徒に示す。生徒は、自己採点結果と照らし合わせ、各レベルの問題をどれだけ正解できていたのかを、科目ごとに確認して振り返り、その後の学習計画に生かす。教科学習面における、生徒の自己分析と方略の選択のベースとなるものだ。

※学校資料を基に編集部で作成。

路イベントをつくっており、生徒も、参加することが意義深いことだと考えるはず。生徒の多くは部活動に参加していますので、参加したいイベントが部活動の日程と重なってしまった場合は、部活動の顧問の教師に自分の思いを説明し、イベントへの参加の了承を得なければいけません。そう

した生徒の自己分析と選択、そして自分の思いを他者に伝える行為も、主体的に学ぶ力の土台になるはず。 (後田先生)

「マイ・ストーリー」を
多様な人と描く力が必要

3年間かけて、生徒の「マイ・

ストーリー」を描く力を育成している同校だが、それでも、9月になって志望校を変更する生徒はいる。21年度大学入試でも、一貫して法学部を志望していた生徒が、3年次の8月になって地域創生を学ぶ学部への志望変更を、総合型選抜への出願希望とともに、担任に申し出た。

「突然の志望変更に戸惑いながらも、その生徒の話をよく聞いてみました。すると、3年間取り組んできた校内活動を、地域コミュニケーションなど生かしてみたいと言っている。そうであれば、出願まで時間のない中で志望を固め直すためにも、校内活動をともに行った先生に相談して、支援を仰ぎなさいと助言しました」(藤村先生)

その生徒は、自分の校内活動のことをよく知る教師の協力を得て、短期間で志望理由をまとめ直し、総合型選抜での合格を果たした。

「唐突な志望変更も、その生徒のことをよく知る人から見れば、むしろ当然のことだったのかも

れません。担任や学年団だけで生徒を抱え込むのではなく、その生徒を一番理解している人につないでいくことも、これからはますます必要になってくるでしょう」(藤村先生)

校内外の多様な経験を通して「マイ・ストーリー」を描く生徒は、教師だけでなく、学校外の社会人などとも接することになる。「マイ・ストーリー」の共同作成者も多彩になって当然だろう。

「将来、高校生の真価の1つが、多様な活動の中で得た協力者・理解者の数や、その人々との関係の深さとなる時代が来ると思いますが。キャリア検討会でも、『この生徒を理解しているのは誰か』といった項目が必要になると思います」(後田先生)

進路と学習という高校生にとつての両輪をしっかりと駆動させ、生徒が自分を最も理解する人たちと進路を切り拓いていく。その軌跡もまた、「マイ・ストーリー」ではないだろうか。